

## 教育活動の改善に努めています

狭間中学校では、充実した教育活動を目指して、毎年『学校評価』を行っています。教職員、生徒、保護者が、それぞれの立場で教育活動を見直し、その結果を分析・検証することで、次年度の教育活動に反映させています。年度初めに計画した教育活動を日々実践し、その結果を評価することで具体的な取組を改善していく Plan(計画)－Do(実施)－Check(評価)－Action(改善) のサイクルで教育活動の改善に努めています。

学校関係者評価委員会<sup>(1)</sup>において、学校評価委員会<sup>(2)</sup>の「学校評価」が適正に行われ、次年度への改善方針が適切であるかを検証していただき、公表する『学校評価』にまとめていきます。

- (1) 学校関係者評価委員会の構成員：校長・学校地域運営協議会委員（地域住民代表・PTA代表・教頭主幹教諭）  
(2) 学校評価委員会の構成員：校長・教頭・主幹教諭・学年主任・生徒指導担当

保護者の皆様には、「学校評価アンケート」にご協力いただきありがとうございました。生徒、保護者、教職員で行った「アンケート」は、「学校評価」の貴重な資料として活用していきます。

「学校評価アンケート」を基にまとめた「学校評価」を一部紹介します。

\*『学校評価』は、今年度中に本校のホームページに載せますのでご覧ください。

### 【アンケート結果の分析と検証】 \* 「A. そう思う」「B. ややそう思う」の数値から

- ・15項目で、「A」「B」を合わせた回答が三者共に90%を超えるたものは「1. 学校や生徒の様子をわかりやすく伝えている」「2. 学校を開放して生徒の様子を見る機会を設けている」「5. 豊かな心を育てようとしている」「10. 教育活動や学校行事などの時期や内容は適切である」「12. 安全で安心した学校生活を送っている」の他、総合評価としての「14. 生徒は、楽しく充実した学校生活を送っている」の6項目でした。
- ・評価の低かった項目は、「3. わかりやすい授業を行っている（保護者79.8%）」「4. 基礎学力の定着に向けた取り組みを行っている（保護者77.9%）」「6. 落ち着いた学校生活を送っている（生徒81.0%）」「7. 生徒のことをよく理解して、適時適切に指導している（生徒88.4% 保護者82.8%）」「8. いじめや暴力がなく、安心して学校生活を送っている（保護者86.6%）」「9. 生徒一人ひとりに活躍の機会と場がある（保護者83.0%）」「11. 部活動は、楽しく充実している（保護者83.5%）」等でした。

◇多くの項目で90%を超えるなど、全体的に見て良好な結果となりました。今年度も生徒たちは規律を守り礼儀正しく授業にも集中して取り組むなど、学校生活全般において落ち着いていることが「A」「B」の高い数値につながったと考えています。しかし、保護者のアンケートからは「わ

かりやすい授業」「基礎学力の定着」「教師の生徒理解と適時・適切な指導」「いじめや暴力のない学校生活」「生徒一人ひとりに活躍の機会と場」「充実した部活動」を期待する意見も多くありました。今回の結果に満足することなく、少数の「C」「D」の回答にも着目しながら改善に努めてまいりますので、今後も本校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

### <項目ごとの分析と検証> \*15項目から9項目を抜粋

\*評価基準 「A. そう思う B. ややそう思う C. ややそう思わない D. そう思わない」

#### 3. 先生は、教え方を工夫してわかりやすい授業を行っている

%表示	A	B	C	D	<生徒の意見>
生徒	50.0	43.4	6.1	0.6	・授業に関係のない話をする先生がいる。
保護者	14.8	65.0	19.1	1.2	
教職員	28.6	71.4	0.0	0.0	

◇保護者からは「わかりやすい授業とわかりにくい授業がある」等、教科（先生）によって教え方に差があるという意見がありました。本校では今年度も「生きて働く言葉の力」を研究テーマに、「主体的・対話的で深い学び」等の授業形態を取り入れた授業の研究を進めています。今後も授業公開や研修会を実施して授業力の向上に努めます。

#### 4. 学校は、基礎学力の定着に向けた取り組みを行っている

%表示	A	B	C	D	<教職員の意見>
生徒	53.6	41.4	4.7	0.3	・基礎基本の定着に向けて、学校全体の取り組みをした方がよい。
保護者	19.5	58.4	21.4	0.8	
教職員	31.0	62.1	6.9	0.0	

◇保護者からは「学習相談の人数を増やしてほしい」「学力に自信が持てるように指導してほしい」「わからない所を聞きに行ける環境がほしい」等の意見がありました。「基礎学力の定着」は、本校の重要な取組課題と捉えています。今年度も3教科（国語・数学・英語）で学級を二つに分けた少人数指導や教師二人による同室複数指導を実施しています。各教科で授業の改善に努め、基礎学力の定着を図るとともに、学習相談の在り方や質問できる機会の設定など、個に応じた対応や新たな取り組みを検討していきます。

#### 6. 生徒は規律正しく、落ち着いた学校生活を送っている

%表示	A	B	C	D	<生徒の意見>
生徒	28.2	52.8	15.2	3.9	・給食の待ち時間に、廊下で暴れている人がたまにいる。
保護者	35.5	54.6	9.2	0.8	
教職員	44.8	51.7	3.4	0.0	

◇月1回の「生活アンケート」からも「教室で暴れたり、廊下を走ったりしている」等、休み時間や給食準備時間の過ごし方が課題となっています。また、授業によっては落ち着かない時もありますので、節度ある休み時間の過ごし方や授業の受け方を生徒とともに考えていきます。

\* 学校だより「自主・創造・根気」第23号-2に続く

# 自主・創造・根気

第23号-2

2019. 1. 21

三田市立狭間中学校

\* 学校だより「自主・創造・根気」第23号-1からの続き

## 7. 先生は、生徒のことをよく理解して、適時・適切に指導している

%表示	A	B	C	D
生徒	44.8	43.6	9.9	1.7
保護者	23.8	59.0	16.1	1.1
教職員	31.0	65.5	3.4	0.0

<生徒の意見>

・相談しにくい先生がいるんじゃないかと思います。

◇生徒からは「先生が自分の考えを押しつけようとする」、保護者からは「悩みは聞いてもらえるが、解決せず流されている」「先生の言動にどうかと思う」等の意見がありました。生徒指導は保護者の理解と協力が不可欠です。生徒や保護者の意見を真摯に受け止め、自らの言動を振り返りながら生徒理解に努め、それぞれの立場で個々の生徒に応じた指導を、保護者と連携しながら行っています。

## 8. いじめや暴力がなく、生徒は安心して学校生活を送っている

%表示	A	B	C	D
生徒	58.3	35.6	4.7	1.4
保護者	25.3	61.3	11.9	1.5
教職員	21.4	71.4	7.1	0.0

<保護者の意見>

・いじめではないが、ある子とは関わりたくないと言っている。

◇生徒からは「いじめや暴力はある」、保護者からは「LINEで悪口を書かれている」「我が子も独りにされた、無視された」「生徒のことをもう少し見てあげてほしい」等の意見がありました。学校は多くの生徒が生活しており、その複雑な人間関係の中で必ず摩擦が生じます。「いじめ」はいつでもどこでも誰にでも起こる問題として捉え、日々の生徒との関わりを通してだけでなく、「生活アンケート」や「教育相談週間」等、あらゆる手段で問題の早期発見に努めます。問題解決に向けては、機会を逸することなく適時・適切に指導し、その後も継続して見守っていきます。

## 10. 教育活動や学校行事などの時期や内容は、適切である

%表示	A	B	C	D
生徒	59.9	37.0	2.8	0.3
保護者	42.5	51.7	5.0	0.8
教職員	36.7	53.3	10.0	0.0

<生徒の意見>

・体育大会は準備期間があまりに短いので、あと1週間ずらしてほしい。

◇保護者からは「梅雨時の沖縄」「テスト直前の修学旅行」等、修学旅行の行き先や時期への疑問や「地域活動やボランティア活動を通して、自分の将来や良さを考える機会がほしい」等の意見がありました。修学旅行の行き先や時期については、毎年、当該学年の教師を中心に検討してまいりますので、保護者へは説明責任を果たすことをご理解いただけるように努めます。

## 11. 生徒の部活動は、楽しく充実している。

%表示	A	B	C	D
生徒	55.2	37.0	5.6	2.2
保護者	35.5	48.0	13.3	3.1
教職員	17.9	71.4	10.7	0.0

<保護者の意見>

・部活動の数が少なく、選択肢が少ない。

◇保護者からは「子どもが疲れている」「予定表が出るのが遅い」「個々の送迎が困る」「もう少し顧問の先生に見に来てほしい」「熱心に指導してくださる先生とそうでない先生の差が激しい」等、多くの意見がありました。1学期の保護者会で今年度の活動方針や活動計画等を説明するだけでなく、毎月の活動計画の早期連絡や必要に応じた保護者会の開催などで、保護者への協力を求めています。部活動の在り方については、今後も保護者への説明に努めていきます。

## 12. 学校は、安全指導や健康管理に努め、安全で安心した学校生活を送っている

%表示	A	B	C	D
生徒	60.2	36.2	3.3	0.3
保護者	40.1	56.1	3.8	0.0
教職員	58.6	37.9	3.4	0.0

<保護者の意見>

・学用品が多い。重すぎて成長期の体には良くない。

◇保護者からは「通学カバンが重すぎる」という意見が多数ありました。また「登下校が一人になるので心配」という意見もありました。通学カバンについてはリュック型に変更しましたが、それでも成長過程にある生徒には身体の負担となっています。通学カバンの軽量化については、早急に検討します。また、生徒の体調管理、怪我や病気の予防、不審者対応なども、全教職員で共通理解して適切な対応に努めていきます。

## 14. 生徒は、楽しく充実した学校生活を送っている

%表示	A	B	C	D
生徒	60.2	33.7	5.0	1.1
保護者	35.1	58.4	6.5	0.0
教職員	32.1	67.9	0.0	0.0

<教職員の意見>

・担任への不満を相談できる機会があると良いと思います。

◇今年度も、「A」と「B」を合わせた数値が90%を超える結果となり、全体的には概ね良好と捉えています。個々の生徒を見てみると課題もあります。学校生活を「楽しく充実している」と感じていない生徒に、今後も寄り添い関わっていきます。

## ○ その他の意見として

保護者や教職員からは「教職員の業務改善」を求める意見がありました。教職員の多忙化を解消することは、生徒に向き合う時間が増えることに通じます。教職員が余裕を持って生徒指導や部活動に関わっていけるように、今後も取り組みを進めていきます。

\* 「学校評価アンケート」の15項目すべての結果と分析・検証については、本校ホームページの『学校評価』のところに載せています。また、「学校評価報告書」も後日掲載いたします。